

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (40) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

紀元前 3 世紀に生きた古代ギリシャのアルキメデス(Archimedes)が数理的な思索をしていたある日、突然の「発見」をしたとき Eureka! (アッそうか、そういうことか、なるほど!) と叫び、喜び勇んだことはよく知られるが、何かを発見することには喜びがある。何事も発見の連続となれば興味は深まるばかり。本連載では特徴ある Trump 氏の英語をたたき台に、Basic を意識した語釈を試みている。

今回もある種の発見を目ざしさらに考えてみる。常に事柄の偽ではない真を求めての発見である。本連載(29)で若干触れたのであるが、偽ではない真 ($2+2=4$, $2+2 \neq 5$) を求めるわけで、Put two and two together and make four. ($2+2=4$: 事柄を統合し正しいこと・真を求めなさい) という日常的にも重要な教訓に注目したい。

cf. He seems to be putting two and two together and making five. $2 + 2 = 5$? No. This statement is false. It is 100% wrong. (cf. EP: II, p. 87, p. 144, p. 149)

政治の世界にも $2+2=5$ のような偽・嘘がはびこっている。これは悪である。旧約聖書の出エジプト記 (Exodus) 第 20 章 16 節に記される有名なモーゼ (Moses) の十戒 (Ten Commandments) の 1 つが 17 世紀初頭 (1611 年) 発刊の欽定訳聖書 (King James Version) では Thou shall not bear false witness against thy neighbour. 「汝、隣人に虚偽をすべからず」となっている。この部分は Basic 訳聖書(BBE)では Do not give false witness against your neighbour. [*witness, neighbo(u)r* は Basic での聖書用語 50 語中の 2 語] となっているが、神がシナイ山(Mt. Sinai)で預言者モーゼを通して示したこの 1 つの戒めにも反する。コトバ(words)を用いての虚偽は最も汚いもので大いに責められるべき。英語で “You are a liar !” (“お前は嘘つきだ !”) は大変な意味ニュアンスを含む。本来われわれは誰もが神の下では平等 (We are all equal under the law of God.) なのであるが、虚言者は神の御言葉(the Word of God)に背く悪人として見下げられる。

関連し、英国の作家 George Orwell は有名な小説 *Nineteen Eighty-Four* 『1984(年)』(1949 年刊)の中で全体主義(totalitarianism)の世界を扱っているが、ここでは $2+2 \neq 4$, $2+2=5$ が真である世界が描かれる。今日的にも大いに注目に値する作品である。なお、G. Orwell は C.K. Ogden の “Basic English” に相当な関心をもっていた作家で興味深い。

すでにいくつも見てきているように Trump 前大統領はいわゆる orthography (正字法) で、Trump orthography なるものを独自に打ち立てたと言える。一般からすれば一瞬の違和感を抱くこともあるが今回も大文字、小文字、記号、感嘆符など彼のきわめて特徴的な感情移入(empathy)をする正字法にも注目するとともに、さらに考えてみる。

(1) On this day of prayer, we once again place our hopes in the hands of our Creator. We give thanks for this wondrous land of liberty, & we pray that THIS nation — OUR home — these United States — will forever be strengthened by the Goodness and the Grace & the eternal GLORY OF GOD! (May 2, 2019)

▲米国では 5 月の第一木曜日は national day of prayer (国家の祈祷の日) で、これは 2 年半ほど前になるが 2019 年 5 月 2 日 (木) の tweet であった。こういう祈りの英文は厳

(おごそ) かな響きのする文体となり、きわめて味わいがある。この類の文を声に出し、あるいは心の中で何度も唱えるのである。英語と英語文化の魂が必ず入る。

「再びこの祈りの日に創造主（神）の御手に希望を託します。この自由の土地に感謝を捧げると同時にわれわれの故郷である合衆国が善と恵みと永遠なる神の栄光により末永く強固なものになりますよう祈ります」という内容であるが、やはりこの文の一般的なわれわれの意味理解法を MSOE スクリーン上に映し出して動かしてみることとする。

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	φ	φ	φ	On this day of prayer, /
2	φ	we	once again place	OUR hopes	in the hands of our Creator. //
1	φ	We	give	thanks	for this wondrous land of liberty, (/)
2	&	we	pray /	φ	φ
3	that	THIS nation — OUR home — these United States —	will forever be strengthened	φ	by the Goodness and the Grace & the eternal GLORY of GOD ! //

(備考) 単一斜線 (/) は各文での意味的 2 分割線。

ここでは最初の文での **once again** は、COP/V の **place** を直接的に強意づける要素と考え、ADV への組み込みとはしていない。Reading はもちろん Listening でも理解にそれほど負荷はかからなくフォローできる文であることが解かる。ただし、Listening の場合はやはり特に 1 音節語の音声そのものを聴く Hearing 力が関わってくる。

太線語 **liberty** (自由) の原義を Basic 語と絡めて求めれば、本連載(11)で提示した同系語パノプティコン(PPE)での **level** がある。さらに他の Basic 語 **lift, belief, love** も同系で「心が浮いて、安定すること」の意味である。プラス α Basic 語 **lever, delivery**、さらに un-Basic 語 **elevator, relief** など同系で、PIE etymon の異形の 1 つとしての /LEV/ から来ている〔拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(71)参照〕。このあたりは実は本連載(2)の②でもすでに見た。

下線とした these United States (cf. the United States) の these は、特別にアメリカ合衆国 50 州が意識された言い方となるが、注目されておいてよい。

なお、この tweet の 2 つ目の文に give thanks for this wondrous land of liberty とあるが、下線のように for であり to ではない。to にしておいて誤文訂正で for に正すのに好例となる。これは give thanks (to our Creator / to God) for ... ということである。

文中に *grace, glory* があるが、*grace, glory* はプラス α Basic 語である。*grace* は Basic 語 **agreement** と同系であると前回言ったし、*glory* は Basic 語 **gold, glass** などと同系であるとして本連載(24)の(1)ですでに見た〔同上拙著、第二部、例(74)、(60)参照〕。

(2) Congrats to @U_S_Steel for investing \$ 1 + BILLION in America's most INNOVATIVE Steel mill. 232 Tariffs make Pennsylvania and USA more prosperous/secure by bringing Steel and Aluminum industries BACK. Tariffs are working. Pittsburgh is again The Steel City. USA Economy is BOOMING !
(May 2, 2019)

▲本連載(37)の(2)などでも触れたが、かつての Rust Belt (重工業地帯) に関して言及している。2020 年の大統領選へ向けての 1 年半ほど前の準備中段階での Trump 氏の tweet であった。ここではペンシルバニアのピッツバーグに本社をもつ鉄鋼会社(USS)が、米国最先端の鉄工所に 10 億ドルを越す投資をしたことに対する祝福で、通商拡大法 232 条は鉄鋼とアルミニウム産業を復活させペンシルバニアと米国に繁栄と安定をもたらすのだ、関税は有効で、ピッツバーグは再び鉄鋼業の都市となる、米国経済は順調だ！と言っている内容である。これの MSOE スクリーンを次に示してみる。

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	ϕ	ϕ	ϕ	Congrats	to @U_S_Steel /
2	for	ϕ	investing	\$ 1 + BILLION	in America's most INNOVATIVE Steel mill. //
1	ϕ	232 Tariffs	make	Pennsylvania and USA more prosperous/secure /	ϕ
2	by	ϕ	bringing	Steel and Aluminum industries BACK. //	ϕ
1	ϕ	Tariffs /	are working. //	ϕ	ϕ
1	ϕ	Pittsburgh /	is again The Steel City. //	ϕ	ϕ
1	ϕ	USA Economy /	is BOOMING. //	ϕ	ϕ

(備考) 単一斜線 (／) は各文での意味的 2 分割線。

意外に文層の浅い tweet 例であることが分かる。各グリッドの要素にはやや尊大な語 (big word) を見るが、最初の文は N₂ + ADV / + CC + V + N₂ + ADV // 、2 番目の文は N₁ + V + N₂ + A / + CC + V + N₂ // と帰納的に記号化・一般化される。ともかく 英語思考

は $3 \pm \alpha$ 語を核にした syntagm (シンタム：統合関係) ということになる。

なお、2つ目の文中に bringing [brɪŋɪŋ] があるが、日本人英語学習者にはここでの2つの鼻音[n]には要注意である。×[brɪŋɪŋg]ではあまりにもお粗末となる。

下線の語 congrats [kənɡræts]は congratulations の略形で、Trump 氏はよく用いる。

太線語 investing は investment (投資) がプラス α Basic 語であるが、原義は「衣類(ベスト)を着込むこと」「衣類で着飾り金持の投資家ぶること」である。vestments (衣服) を扱うアパレル業界とその investment (投資) の問題となると語として同系という点で直接的に結びつくことになる。本連載(12)などで言及した衣食住にも構造・パラダイム〔範列体系(paradigmatic system)〕があるとする社会思想としての構造主義(structuralism)、ポスト構造主義(post-structuralism)、またその基底にある構造主義言語学(structural linguistics)の注目点でもある。このあたりは本会の Year Book (2020, No. 72)、同(2022, No. 74)などで示した拙稿の趣旨内容とも結びつく。

太線語 INNOVATIVE (刷新的な) の NOVA (新星) はもちろん new の意味であるが、「駅前留学」という突飛なキャッチフレーズを用い、そして確かに駅前にあることで有名となった英語教室名にも用いられている。SUPERNOVA (超新星) という英語の言い方もあるが、S-NOVA「エスノヴァ」など新たに教室名の変更もよいかもしいがどうだろう？それにしても「駅前留学」という日本語？には当初驚いた。

太線の地名 Pennsylvania は英国からこの森林地帯に入植した移民者 William Penn に由来し、Pennsylvania [Penn + sylvania (= woods)]として知られている。英語の onomastics (固有名詞学) からの専門的追究も今後の課題〔本連載(1)、⑥ 参照〕。

太線語で Basic 語 **back** はこの場合 bring ... back であるが、何かと back が上手に日本人は使えない。たとえば帽子の着脱(on/off)で He put the hat off. (脱いだ) と He put the hat on. (被った) の2文並列では He put the hat off. He put it back on.であり、旧／新情報(given / new information)が関わり back なしは不自然となる。

(演習) 本連載(36)～(40)より

次の a)～g)の Basic 語と同系の他の Basic 語は下の①～⑦のうちどれか (Basic 語の音感と語感に関わるもので、すべて扱ったもの)。今回もほぼ瞬時に正解したい。時間がかかるのは本来ではないことになる。語の簡素な意味を音声からも直感するわけである。

- a) **loss** b) **stick** c) **desire** d) **important** e) **special**
f) **advertisement** g) **love**

* * *

- ① **attack** ② **lift** ③ **loose** ④ **respect** ⑤ **seat** ⑥ **support** ⑦ **verse**

.....

[正解]

a) ③	b) ①	c) ⑤	d) ⑥	e) ④	f) ⑦	g) ②
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------